

27

二月

第二十一特別根據地隊司令部

第二十一特別根據地隊戰時日誌

軍機

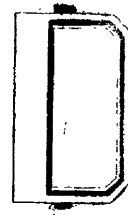
機密第二十一特根第六號ノ二五

自昭和十九年二月一日  
至昭和十九年二月二十九日

三月五日提出



1849



目次

- 一 經過
- 二 人員、現狀
- 三 令達報告
- 四 參考
- 五 作戰經過概要
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理
- 八 令達報告別紙

1850

一  
經

過

1851

敵情

イ 敵機ハ前月ニ比シ異狀ヲ認メザルモ哨戒偵察ハ強化シアリ特ニ  
 濠洲西部方面哨戒飛行艇ノ哨戒ハ下旬以降頓ニ活潑化セリ  
 敵艦ハセレベス東方海面及丁近海ニ出現顯著ニシテ下旬 JN<sub>2</sub>ハ  
 JS 近海ニ出現多ク又初メテ DAC 附近ニ出現セシハ特異事項ナリ  
 ハ 濠洲西部印度間敵輸送船ノ行動活潑ニシテ下旬以降英  
 艦 DAC 南東方ニ出現セルハ特異ナリ

我が軍ノ情況

イ 陸軍部隊濠北正面邀撃準備ヲ強化シツツアリ  
 ロ 在 JN 第二歩兵團ニ轉進東部防衛隊ハ JNF ヨリ JN 三位置シ JN  
 附近要地防空ニ任ズ

ハ當部隊兵力中

- (一) 十日ヨリスンダ海峽ニテ一式水中聽音機ノ揚収並ニ設置作業開始同時ニ三式磁氣探知機ヲ設置ス本作業中立石ヲ指揮シ作業ニ從事セシム
- (二) 十五日一〇一及一〇〇魚雷艇ヲ奇襲部隊ヨリ除キ一〇魚雷艇ハ原隊ニ復歸一〇一魚雷艇ハ作戰ニ關シ壕北部隊指揮官ノ指揮ヲ受ケシム
- (三) 十六日一五見張所ニ式一號電波探信儀ニ型ニ基裝備ヲ了ス
- (四) 二十日九三ニ空水偵ニ機JVニ進出ス(合計十機整備)
- (五) 二十三日九三ニ空水偵一機作戰飛行中シヤワ西部南海上ニ不時着機體ハ解體収容セリ人員異狀ナシ
- (六) 二十三日ロンボック東砲臺(鹵獲十五種ニ探照燈一)工事終了

三 作戰指道

イ 海上交通保護

アノホシ

- (一) 川向ケA輸送ノB船丹後凡A船隆西凡ヲ十一號掃海艇第  
五拓南凡ヲシテ護衛セシメ二十四日JN發ノ處二十五日夜バリ島  
北方ニテ敵潜ノ雷撃ヲ受ケ兩船共沈没セリ  
速ニ驅潜ニ驅潜八掃一〇ニ掃特及喜多丸ヲ派遣凡ニニ部  
隊ト協力セシメ當隊全力ヲ與テ銳意敵潜撃滅人員救助  
防謀等ニ萬全ノ上處置ヲ講ズ
- (二) 海上交通保護ノ萬全ヲ期スル為船團護衛打合ノ都度敵情  
戰訓注意事項等ニヨル指道又參考資料ノ配布等ヲナス
- (三) スラバヤ海峽ヲ護衛艦艇警戒部隊ノ夜間應急出入可能  
ナルク航路標識設置ヲ試行中

1854

3/12/16

口對潛

- (一) 十九日DAC北岸迎距離ニ敵潛發見陸上砲臺ハ之ニ有効彈ニヲ與ヘ九三二部隊ヲシテ捜索攻撃ヲセシメタルモ之ヲ逸ス
- (二) 二十三日方位測定ニヨリJNノ三一度一〇〇哩ニ敵潛ヲ測定ハ掃ヲシテ九三二部隊ト協力攻撃ヲセシメタルモ之ヲ逸ス
- (三) 二十五日夜バリ―島北方ニテ丹後丸隆西丸十一掃五柘南丸護衛相次ヲ敵潛ノ雷撃ヲ受ケ沈没セルヲ以テ八掃一號二號各驅潜艇一〇二掃特九三二部隊ヲシテ捕捉撃沈ニ任セシメタルモ敵情ヲ得ズ
- (四) 一日北陸丸(驅潜護衛)スラバヤ海峽西口航行中附近ニテ磁氣機雷爆發(損害ナシ)セルヲ以テ同海峽ノ航行ヲ禁止シ急速掃海ヲ實施シ五日ヨリ禁止ヲ解除セリ(處分撥留ナシ)
- (五) S及A輸送對潛警戒ノ為九三二部隊ヲJUBニ派遣ス

ヒマ基地

424ヤ170

ハ對機

(四) 二十九日九三ニ空水偵スシテ海峡南部ニテ敵浮上潜水艦ヲ攻撃手  
至近彈ニヲ得タリ引繼キ九三ニ部隊一〇七掃特ヲシテ搜索攻撃  
セシメタルモ敵情ヲ得ズ

(一) 二十日三三一空艦戰ニ機カリムンジヤウ島附近ニテ不時着ス報ニ  
ヨリ九三ニ部隊ヲシテ搜索救援セシメタルモ発見スルニ至ラス同  
日JGニ不時着大破セル三三一空艦戰ノ搭乗員ヲ救助セリ

(二) 二十六日JWA電令第三五五號ニ依ル主要軍需品及機材ノ分  
散立ニ重要施設ノ防護又ハ偽裝ニ關スル打合對策ヲ講ジタ  
リ

(三) 二十七日JWA JUCニ敵四發七機來襲次デマツラ島上空ニ敵味方  
不明機ノ出現ニヨリ丙區空襲警報又發令セルモ後者ハ味方機  
ト判明警報解除セリ



二 邀撃予帯設定

- (一) 小スンダ要地防禦障礙地ヲ引續構築中
- (二) 二十三日ボンボック東砲臺(鹵獲十五糧砲二)工事終了 西砲臺(鹵獲十五糧砲三)工事施行中
- (三) ビマ補給中繼基地施設工事施行中
- (四) ビマ飛行場擴張工事 スンバワ等ニ飛行場建設工事チリリタン 飛行場滑走路補装工事等急遽施行中

水防謀

- (一) 四日間ニ亘リ現住民使用者身分證明書一齊検査ヲ施行セリ
- (二) 丹後丸隆西丸ノ遭難者ヲバリ島ニ收容防謀ニ關シ三警司令ヲシテ遺憾ナキヲ期セシム

教育訓練

- (一) 管下全般陸軍擔任員見張員ニ對シ前月ニ引繼キ水上見張ヲ主

トスル見張講習指導ヲナシ多大ノ成果ヲ得タリ

(二) 二十日ヨリパジヤルカン海軍兵舎ニ於テ陸戰訓練中ニシテソノ成  
果極メテ大ナリ

(三) 二十一日假稱單式水中聽音機取扱法ニ關シ講習ヲ實施セリ

(四) 二十八日ヨリ海陸軍連合防衛演習ヲ實施中

ト其ノ他

廢品回收部署ニ依リ急速安具施中

1858

四磨下艦船行動

二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
務任衛護										務任衛護										ルサツカマ					掃八				
務任衛護					哨戒					務任衛護					哨戒					務任衛護					掃十一				
務任衛護					哨戒					務任衛護					哨戒					務任衛護					掃十二				
湯掃潜對					務任衛護					湯掃潜對					務任衛護					哨戒					驅潜一				
湯掃潜對					務任衛護					湯掃潜對					務任衛護					哨戒					驅潜二				
務任衛護					哨戒					務任衛護					哨戒					務任衛護					驅潜三				
務任衛護					哨戒					務任衛護					哨戒					務任衛護					〇四驅特				
務任衛護					哨戒					務任衛護					哨戒					務任衛護					〇五驅特				
面					方					方					西					〇七驅特									
面					方					方					ス					〇八掃									

口

二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	三三	三二	三〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
ヤ	バ	ラ	ス	一七三〇	任	護	務	衛	一八五〇	ヤ	バ	ラ	ス	一七三〇	任	護	務	衛	一八五〇	ヤ	バ	ラ	ス	一七三〇	任	護	務	衛	一八五〇
面					方					フ					ヤ					ジ								西	
ヤ	バ	ラ	ス	一七三〇	任	護	務	衛	一八五〇	バ	ス	ラ	ヤ	哨	戒	一七三〇	ヤ	バ	ラ	ス	一七三〇	タ	ル	カ	ヤ	ジ			一〇四
面					方					フ				ヤ						ジ			西			ヤ	バ	ラ	ス
																													立
																													石

97

軍機

武の調直要頁敵

機密第二十特根第六號、二六

自昭和十九年三月一日  
至昭和十九年三月三十一日

四月二十日

第二十特別根據地隊戰時日誌

第二十特別根據地隊司令部

三月

19.5.8

1361

三月

目次

- 一 經過
- 二 人員、現狀
- 三 令達報告
- 四 參考
- 五 作戰經過概要
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理
- 八 令達報告別紙

1862

98.

一

經

過

1863

一 敵情

イシヤワレ方面雨期明ヶ近ク敵機来襲熾烈化予想セラルル處豪州北西  
 部ニ於ケル敵機益々増強サレシヤル如ク九日頃ノ通信情報ニヨル  
 敵機異動状況ハ十八年七月及上月ニ於ケル東部コシヤワレ空襲前  
 敵機ニ酷似ス 同方面艦船ノ異動亦活潑ナリ  
 コニ月未ホコスタダレ列島南方ニ多数出現セル敵機ハ漸次列島線  
 ヲ突破北上セルモノ如シ 特ニコバリ島北方ニ出現顯著ニシテ  
 我軍ノ重要船團ノ行動ヲ知悉セルモノ如ク跳沓ホセリ  
 ハ中部太平洋方面ノ戦局ニ呼應シヨニユキヤレ方面ノ敵情ハ最モ警  
 戒ヲ要スベシ

ニ 我軍ノ状況

イ陸軍部隊ハ前月ニ引續キ豪州北正面激撃戦術ヲ強化シツアル  
 モ未ダ完了セズ  
 ロ海陸軍ハ所定兵カヲコスタバヤレ地区ニ集中シツアリ

1364



八高部隊兵力中

(一) 二日附第二八號魚雷艇ヲ奇襲部隊ヨリ除キ單港警戒部隊ニ編入セル處 二十一日附更ニ蒙北部隊指揮官作戰指揮ヲ受ケシム

(二) 二十一日附防空ニ關シ SAB JN 派遣西戰隊ヲ指揮シセテ直率部隊ニ編入ス

(三) 二十一日附一三防空隊ヲ臨時指揮下ニ入レ 丙區部隊ニ加フ

(四) 二十一日附一三防空隊ヲ丙區部隊ニ加フ

三作戰指導

イ海上交通保護

(一) 船團護衛打合ヒ機曾ヲ利用シ敵情戰訓等ニヨリ被護衛艦側ヲ指導スルト共ニ前月ニ於ケル對潜作戦ニ關スル研究會ヲ召集シ

(二) A 船日南丸 平安丸 (HFD 行) B 船國山丸 (WA 行) C 船如 (カンデマン島) 假泊地ヨリロンドンボック 假泊地間如ヲ加フヲシテ被護衛セシメ JN ヨリ HFD

ニ向ケ航行中ニテ七〇〇〇 日南丸ハ輔七五五五等ニ於テ敵潛ヲ雷撃ス

(三本命中)ヲ受ケ沈没セリ(KB 战斗詳報第四號参照)

(三)敵ハ要点ニ謀者ヲ配シ武カ艦艇、勦掃ヲ謀知シ潜水艦戰ニ利

用ヲ疑アルニ鑑ミ當隊ハ陸軍、花機、民政府及地方官憲ノ協力

ヲ得艦船航路ニ當ル主要岬角離島等、謀者掃蕩ヲ實施シ通

敵行爲ノ根絶ヲ期シアリ

(四)二月二十三日ヨリ三月十日ニ至ル間「バリ」海峡敵側敷設機雷海面掃

海ヲ實施ス

口對者

(一)三月八日ニ。九輪八度五分ニ於テA船大明丸、敵潜雷艇ヲ受ク

九三三部隊及一。ニ掃特ヲシテ捕捉攻撃ニ當ラシムルト共ニWAヨリJN向

船團護衛中、此ノ現場ニ急航セシメ協同索敵中十二日。五五八船

南八度五分ニ於テ浮上中、敵潜ヲ發見、ト共ニ追撃更ニWAヲモカヘテ

遂ニ十三日。五五八船ニ於テ潜没セルヲ爆雷攻撃シ撃沈概不

確實ナル結果ヲ得タリ。

(二)九日。三三三「マトラ」島南端「バリン」湾(南八度五分)附近ニ敵潜

三隻出現上陸ヲ企圖セリト報ニヨリ九三三部隊、一部兵力ヲFB基地

ニ進出セシメテ攻撃スルト共ニ区域部隊ヲシテ「スダ」海峡ヨリノ侵入

1366

ヲ阻止セシメタルモ之ヲ捕捉スルニエラス

(三) 十四日〇九五七輔八度五分ニ於テ船團護衛中水偵ノ發見爆撃セル敵潜

ニ對シ及如ハ直ニ之ヲ爆雷攻撃シ一〇〇ニ至リ重油多量湧出セ

シム敵潜沈確實

(四) 十八日一三五六水偵ハ凡基地ヨリ九四度一六四理(輔七度五分)ニ於テ浮上

敵潜ヲ認メ爆撃次第及如ヲ以テ捕捉ス敵潜ハ(輔七度五分)ニ真雷攻

撃ヲ加ヘ来タルモ代ニ被害ナク一八二五(概位東七度五分)ヨリ一九二二ニ

至ル間數回ニ至リ爆雷攻撃ス氣泡重油湧出狀況ヨリ撃沈

確實ト認ム

(五) 十九日一三五四〇一ニ至リ(輔八度二分)ニ於テ敵潜ノ雷撃ヲ受ク(八二五

二三二五)輔七度五分ニ於テ敵ノ浮上セルヲ認メ直ニ之ヲ攻撃セルモ撃

沈ニ至ラズ(八二五)ニ至リ(輔七度五分)ニ於テ索敵掃蕩セルモ敵情ヲ得ズ

(六) 二十日一四三〇(輔七度五分)ニ至リ春川丸雷撃ヲ受ク(八二五)ニ至リ

三十一日一〇〇〇(輔七度五分)ニ至リ(八二五)ニ至リ(八二五)ニ至リ

(七) 敵船ヲ以テ護衛シ七〇六〇カニゲアニ島假泊地ヲ發シ(八二五)ニ至リ

島ニ向進セル船團(A船日南丸 平守丸 B船國山丸)ハ三十七日一〇〇〇

敵潜雷撃ヲ受ケ平守丸ハヨク此ヲ回避シタルモ日南丸ハ三本ノ

命中魚雷ヨリ南七度三七分東二五度五五分ニ於テ沈没セリハ直ニ爆雷  
攻撃ヲ如ヘ重油ヲ湧出セシム次ニ船團ヲカンゲアニ島假泊地ニ避退セシメ護  
衛艦ノ他更ニ四哨戒艇ヲ加ヘ掃蕩殺手沈確實

ハ對空

ハ十六日〇〇三〇マドラ島東方ヨリJVニ侵入セントスル敵機ヲ電探捕捉  
敵機ハB24ニ機宛計十五機ヲ以テ東部「シヤワ」及「バリ」島ニ來襲主トシ  
テ「グリセ」飛行場及爆彈庫附近ニ集中投彈(爆彈一五、燒夷彈多數)  
月光三機ヲ以テ〇三一〇之ヲ殺手退セルモ歸途「バリ」島「デンパツサル」ニモ投彈  
原住民及家屋ニ輕微ナル損害アリタリ

(二十八日〇一四〇敵B24約十二機「シヤワ」島東端「マドラ」島東端ヲ經テJV  
ニ侵入軍港地區及「グリセ」附近ヲ襲ヒ投彈(六九)其他(三三)

〇三四〇「マドラ」島ヨリ「バリ」島ヲ經テ退散ス

軍港地區ニ於テ重油タンクヲ火上セシメタル他倉庫等ニ輕微ナル  
損害ヲ受ク 戦果ナシ

ニ邀撃帯設定

(一)魚雷艇基地整備計畫ニ基キ第一期施設工事トシテ「チラチヤツプ」  
「デンパツサル」ロニボ(「ワウオラダ灣」)基地構築中

1868

(二) 連綴補給基地及補給中継基地施設急速整備中

(三) ビマ飛行場擴張工事、スンバワ第二飛行場建設工事、チリリタン飛行場滑走路舗装工事等急速施行中、スンバワ第二飛行場ハ六月末、其他四月十日完成、見込

(四) 第百ニ海軍工作部、南西方面海軍航空廠第二土通信隊各部ノ防空防護施設工事實施計畫ガ決定、急速構築中  
木防謀

(一) マドラ島火藥庫爆發ニ際シ直ニ警戒隊(ニヶ小隊)ヲ派遣、警戒方謀ニ當ラシム

(二) 四日間ニ亘リ、現在民使用者身分證明書一齊日検査ヲ施行セリ  
教育訓練

(一) 四日海陸軍連合防衛演習終了

(二) 補充兵(水兵ニ〇〇、主計兵四〇)ニ對シ十三日ヨリ基礎教育ヲ開始ス

(三) 補充兵(機關兵六八、主計兵五)ハ一月ヨリ引續キ教育中

(四) 一月ヨリ引續キ教育中ノ自動車操縦技術講習實習終了、ニ五名檢定ノ結果、總員合格ス

(五) 二月二十日ヨリ三月十一日ニ至ル間第十回陸戰訓練ヲ實施ス

四麾下艦船行動

三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		驅潜一
護衛	スラバヤ	務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		航海	驅潜二	
巨表		入		入		入		入		入		入		入		入		入		入		入		入		入		入		航海	驅潜三	
ヤ		バ		ラ		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		航海	掃八	
務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		掃十	掃十一	
務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		掃十二	一〇四	
ヤ		バ		ラ		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		ス		一〇四	特	
海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		海航		一〇四	特	
務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		務任衛護		一〇四	特	
面		方		方		方		方		方		方		方		方		方		方		方		方		方		方		一〇四	特	

103.

三 一	三 〇	二 九	二 八	二 七	二 六	二 五	二 四	二 三	二 二	二 一	一 〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
面																				西	
方																				ス	
ヲ																				シ	
ヤ																				シ	
ジ																				衛	
護																				ヤ	
バ																				バ	
ラ																				ラ	
ス																				ス	
航																				航	
海																				海	
石																				石	

1871

武蔵野野郎長殿

機密第二十一特根第六號二九

自昭和十九年四月一日  
至昭和十九年四月三十日

第二十一特別根據地隊戰時日誌

第二十一特別根據地隊司令部

十九  
四



1872



一	經	過
二	人	員
三	令	達
四	參	考
五	作	戰
六	醫	務
七	會	計
八	令	達

目次

現狀  
報告  
概要  
衛生  
經理  
別紙

十九  
四

1873

15

一

經

過

1374

一敵情

イ 中部太平洋及ニューギニア方面ニ於ケル敵ノ進攻熾烈化ニ伴ヒ西濠洲印度洋海面ニモ敵機動部隊策動ノ徴アリ

四月十九日ファンタマンレニコバルレ及北部コスマトラニ來襲ノ敵機ハ何レモ小型艦上機ニシテ空母ヲ攻撃計トセル敵機動部隊ハ印度洋ヲ南下西濠洲ニ向ヒタルモノ如ク爾後ノ行動警戒ヲ要ス

ロ 例月ニ比シ當方面ニ於ケル敵潛出現ハ極メテ閑散ナリシモ月末ニ至リテ漸ク跳梁ノ徴アリ特ニエギスマウスレ灣及北方海面コロンボック島南方コタイウンレ附近ニ出現セル敵潛ハコジヤワ方面ニ對スル敵機來襲企

圖ト併セ警戒ヲ要ス

ハ 本月中コジヤワ方面ニハ敵機ノ來襲ナカリシモコナモール方面ニハインド連日來襲シ又コスンバワレ島ニ飛來セル敵機ハ同島ヲ隈無ク偵察セルモノ如クソノ一部ハ北上シテバリックパンレヲ襲ヒ同港ニ屢々磁氣機雷

音響探知機雷ヲ敷設セリ陸軍部隊ノスンバウスンバウ島進駐ノ狀況ニ  
鑑ミ注目スベキ事象ナリトス

又月末ノ敵大型機ノ「ダーウィン」地區ニ於ケル移動狀況ヨリ觀テ「ジャワ」  
方面敵機來襲ノ算大ナリ

## ニ 我が軍ノ狀況

イ 十五日附第十六軍ハ第七方面軍ノ隸下ニ編入セラレ戰備強化ヲ圖ル

ロ 陸軍ハ臨時「スラバヤ」防空隊ヲ編成シ「スラバヤ」主要地區ノ防空ヲ強化ス

ハ 一日第一〇四航空基地隊ハ「TIB」ノ附屬部隊ニ編入セラル

ニ 十日砲艦南海ハ「TIB」ニ編入セラル

ホ 二十七日軍需部在庫機銃ヲ在「スラバヤ」各部隊(廳)ニ配備シ敵機

來襲ニ備フ

ヘ 當隊兵力

(一) 五日曉ヲ暹港警戒部隊ヨリ除キ「チラチヤツ」各遣隊ニ加フ

- (一) 五日第一〇八第一〇九防空隊(三月二十五日附)ヲ丙區部隊ニ加ヘ第三三防空隊ヲ除ク
- (二) 十日第一〇一號及第二八號魚雷艇(GHB作戰指揮)ハ當隊ヨリ除カレ第一六特報所屬トナル
- (三) 十五日花機關解隊ニ伴ヒ要員ノ一部ヲ當隊ニ加フ
- (四) 九三二部隊機種變更ノ編成替終了(現兵力93)
- (五) 十七日第一〇三號特務艇ヲ直率部隊ヨリ除キ甲區部隊ニ編入ス
- (六) 二十一日第一〇四號哨戒艇ヲシテ竹船團護衛ノ爲一時HIB及GHB各指揮官ノ指揮ヲ受ケシム
- (七) 二十一日第一〇四號驅潛特務艇ヲシテ一時乙B指揮官ノ指揮ヲ承ケシム
- (八) 二十七日九三二部隊水偵四機ヲ陸軍重要船團護衛ノ爲一時GHB指揮官ノ指揮ヲ承ケシム
- (九) 二十九日第一〇八第一〇九防空隊來着直チニ所定陣地ニ展開ス

(但シ第一〇八防空隊ハ兵器未着、爲一時機銃陣地ニ配備ス)  
(正) 二十九日コニーギア方面ニ進出、爲便船待機中ノ第一〇七防空隊ヲ一  
時指揮シ軍港地區ニ配備ス

### 三 作戰指道可

イ 海上交通保護

- (一) 前月ニ引續キ重要艦船航路ニ當ルコソボック島及「バリ」島北岸  
コソグ海峡附近及諸離島ニ於ケル敵諜者及諜報機關ノ掃蕩ヲ行フ
- (二) 現下ノ敵情ニ對應シ運綴避泊地利用ヲリ護衛船團ノ航行ヲ  
成シ得ル限リ晝間ニ限定ス

(三) 小型船乗員教育ニ關シ實施廳ニ協カス

### ロ 對潛水艦

- (一) 二十六日〇八一七マカッサルヨリニ七四度一ニ四哩ニ浮上南下中ノ敵潛艦對  
シ九三ニ部隊兵力ヲ以テ之ヲ捕捉撃滅セシムルト共ニ甲區部隊ヲ以テ

19.3.23  
41  
1878

コンボック海峡ヨリ遁走ニ備ヘシメタルモ敵情ヲ得ズ

- (二) 二十九日一八三五九三部隊水偵がコンボック海峡(南二八度九分)ニ夜襲見  
攻撃セル敵潜ニ對シ當時八船三隻ヲ護衛コワインガッパニ向ケ航  
行中ノ敵ヲシテ三隻ヲバリト島セントニコラス灣ニ避泊セシメ攻撃  
ニ向ハシメ又敵ヲフラバヤレヨリ出撃手セシメ航空部隊及甲區部隊ノ  
兵ヲ以テ徹底的掃蕩ヲ實施ス

### ハ 對航空機

- (一) 九日以降甲區部隊ニ於ケル電波探信儀報告通信教練ヲ實施ス
- (二) 略全月ヲ通ジ月光機夜間飛行教練ニ伴ヒ電波探信儀利用戦闘  
機誘導及對空照射砲戰教練ヲ實施ス
- (三) 三十一日バリックパハン港ガ敵ノ磁氣機雷敷設ヨリ閉塞セラレタルニ  
鑑ミ軍港警戒部隊ヲシテ掃海戰ニ備ヘシムルト共ニ二十六日ニ至ル夜  
間コアラバヤレ水道ニ掃海艇(又ハ驅潜艇)一隻及小型艇(機銃ヲ備

(四) フニ隻ヲ配シ機雷敷設ノ敵機邀撃ニ任セシム  
 敵機ヲスラバヤレ來襲ニ備ヘ軍需部在軍中ノ機銃ヲ臨時在「スラ  
 バヤレ」各部隊(艦)ニ貸與シ左ノ如ク配備ス

二十五隻機銃 (機雷敷設機銃 八〇〇)	一八	二	三	六	二	二	二	三	三	一
三十一挺九三二空 務務部航空廠 通信隊 三南道 司令部 氣象隊 工務部 施設部 南後										

二 邀撃手段設定

(一) 前月ニ引續キ運綴補給基地及補給中繼基地並ニ魚雷艇其基地ヲ  
 急速整備中

(二) 「サウビ」及「ムンケマル」水上機基地施設急速整備中「ムンケマル」其基地ハ  
 船團護衛機前進基地トシテ使用中

(三) 「スラバヤレ」於ケル防空兵器配備(八項ノ通)ノ強化並ニ分散格納起爆層日



109  
精築重要施設隱蔽ノ徹底ヲ期シ又各航空基地ニ於ケル送受信  
所及電線所ヲ洞窟式或ハ地中式ニ構築方按畫中

ホ 防 諜

- (一) 三四日兩日ニ亘リ防諜訓練ヲ實施ス從來ノ防諜計畫ノ徹底ヲ計リ防諜意識ヲ旺盛ナラシムルニ大ニ成果ヲリケルモノト認ム
- (二) 三十一日ヨリ三日間現任民使用者身分證明書一齊檢査ヲ施行セリ

ハ 教 育

- (一) 一日ヨリ四日迄丙區防望訓練ヲ實施セリ
- (二) 十二月十五日入隊ノ補充兵(機關兵六五)主計兵五)ハ二十日教育ヲ終了セリ
- (三) 二月一日入隊三月十三日ヨリ基礎教育中ノ補充兵(水兵一九)主計兵四〇)二十八日教育ヲ終了各隊ニ配屬ソノ過キ數ヲ「バジヤラガン」兵舎ニ收容陸戰教育ヲ施行中

- (四) 七日ヨリ第十二號電波探信儀ニヨル測定通信教練ヲ實施ス
  - (五) 補充兵ヲ以テ電波探信儀ノ特別教育ヲ實施ス
  - (六) 補充兵ヲ以テ信號見張教育ヲ實施ス
- ト其他

廢品回収部署ニヨリ急遽實施中

114

五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	四
										務	任	衛	護		龍潜一	艦
		護	任				ヤ	バ	ラ	ス					龍潜二	船
															龍潜三	行
																動
																掃
																八
																掃
																十一
																掃
																十二
																一四
																龍潜
																五
																龍潜
																七
																龍潜
																一四

1383

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六
護衛任務	スバヤ	任務	護衛	一五〇	スバヤ	スバヤ	一八〇	スバヤ	一八五			ヤ		
福	スバヤ	任務	護衛	一四〇	スバヤ	スバヤ	一三〇			務	任	衛		
神	護衛任務	一五〇		ヤ	スバヤ	スバヤ	一四〇				務			
務	任	衛	護	一四〇	スバヤ	スバヤ	一八〇							
務	任	衛	護	一五〇	スバヤ	スバヤ	一八〇	任	衛	護	一三〇	スバヤ		
務	任	衛	護	スバヤ	スバヤ	スバヤ	一八〇			務	任			
面	方	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ	スバヤ
	ヤ													
	ヤ	バ	ラ	ス	任	護	務	一四〇	任	護	務	一三〇	スバヤ	一五〇

112.

五	四	三	二	一	百	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
		ダ					ン								ス	百二掃特
ヤ	ボ	ラ	ク	一 三	哨 區	二 〇	ハ ス ヤ	一 四 五	掃 敵 湯	一 〇 三	バ ス ヤ	二 三 〇	掃 蕩	敵 潜	百三掃特	
		ヤ					ジ								西	百七掃特
															1885	

三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六

面 方

面 方 ン ス 〇 入 四 〇 ス ラ バ ヤ 一 二 三 〇 一 七 〇 一 七 〇

面 方

1886

113.

○武功詔書部

軍機

機密第二十一特根第六號、三〇

自昭和十九年五月一日  
至昭和十九年五月三十一日

五月至各送付

10  
12

第二十一特別根據地隊戰時司令部

第二十一特別根據地隊司令部

十九五

1387

目次

- 一 経過
- 二 人員ノ現状
- 三 令達報告
- 四 參考
- 五 作戦經過概要
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理
- 八 令達報告別紙

1388



114.

一  
經

過

1380

敵情

115.  
イ先月來西部ニユーギニアニ於ケル敵上陸作戰ノ西漸ニ呼應シ  
當方面ニ對スル牽制陽動ノ算大ナリシ處十七日敵機動部  
隊ハ「スラバヤ」ヲ空襲セリ、爾後同部隊ノ行動ハ明確ナラザ  
ルモ、通信情報ニヨレバ概ネ印度方面ニ歸投セルモノト判斷  
セラル。中部太平洋及西部ニ「ユーギニア」方面ノ敵情ニ鑑ミ當  
方面ニ於ケル此種機動部隊ノ策動ニ對シテハ益々警戒ノ  
要アリ。

ロ機動部隊來襲ニ次ギ翌十八日ニハ西濠方面ヨリ發進セル  
敵機「スラバヤ」ニ來襲又翌十九日「バリック」パパン侵入セル敵機  
ハソノ港口ニ機雷ヲ敷設セリ、爾後連日「小スンダ」各地ニ飛來  
シ又二十五日「スラバヤ」ニ機雷敷設セル等ニ鑑ミ敵ノ意圖ハ當  
方面主要港灣ノ閉塞ニヨル東方ヘノ補給路遮斷ト判斷ス

1890

八月中旬以後當方面ニ於ケル敵潛ノ出現ハ頓ニ活潑化ス  
ニ我軍ノ情況

不當隊兵力中

(一)花機關解散ニ依リ新ニ當隊ニ配屬セラレタル情報要員  
ヲ加ヘ一日附山部隊(甲區特敬言隊員ヲ以テ編成)川部隊  
(乙、丙、丁、戊區特敬言隊員ヲ以テ編成)ヲ編成以テ情報工  
作ノ完壁ヲ期ス

(二)十日スラバヤ「グリセ」間海上ニ砲臺船(一五〇糎探照燈一  
基十三糎機銃ニ基裝備)一隻ヲ配備セリ

(三)十三日一〇一號掃海特務艇ノ引揚作業終了セルモ十七日朝  
ノ空襲ノ際至近彈ニ依リ再度沈没セリ

(四)十五日附一〇四號哨戒艇八船圍護衛ニ關シHIB指揮官ノ  
指揮ヲ受ケシム

1891

(五)十五日附三八一部隊、スラバヤ、派遣内戦隊ヲ直率部隊ヨリ除ク

(六)十七日朝ノ空襲ニ依リ工作部第二工場ニ於テ新造公試準備中ノ第一〇七號驅潜特務艇ハ直撃弾ヲ受ケ沈没セリ又同工場ニ於テ艦装中ノ第一〇八號驅潜特務艇ハ至近弾ニ依リ浸水ス

(七)二十三日附新造大發四隻ヲ工作部ヨリ引渡ヲ受ク

(八)二十六日、カリタル南方(スラバヤ)ノ二一〇度七五理(二一號二型及一號一型電波探信儀各一基装備)シ一見張所ト呼稱ス

### 三、作戦指導

不海上交通保護

(一)敵情ニ鑑ミ船團航行ヲ成シ得ル限り晝間ニ極限ス

(三)二十日以降、スンバワ島方面ニ夜間屢々敵機侵入シ港灣ノ偵察ヲナシツツアルモノノ如ク又「バリ」島北岸ニ晝間來龍衣セル敵機ハ單獨ニテ飛來、接岸航行中ノ機帆船ニ銃撃ヲ加フル等、特異ナル情況ニ鑑ミ一般船舶ノ「バリ」島北方海面ノ晝間航行ヲ禁止シ且「小スンダ」列島間各海峡ハ晝間航行セシムル如ク指導守シ特ニ小型船ニ對スル航行管制ヲ強化ス

ロ 對潜水艦

(一)五月二十九日ヨリ「ロンボック」海峡ニ於テ敵潛掃蕩中ノ如ク及甲區部隊各艇ハ二日掃蕩ヲ中止シ「カ」護衛A船三隻及「フ」インガツ「フ」向航行ヲ再開ス

(二)十八日。六三〇<sup>カ</sup>護衛中ノA船神隆丸ハ<sup>カ</sup>七度<sup>カ</sup>三分ニ於テ敵潜水艦(十七日ノ空襲ニ際シ敵ガ不時着機搭乗員救助ノ

為配備セルモノト認メラルノ雷撃ヲ受ケ沈没セリ直ニ九三  
ニ空機ヲシテ此ノ協力敵潜ノ捕捉攻撃手ニ當ラシムルト共ニ  
此ノW101ヲ急據出撃手セシメ掃蕩セルモ敵情ヲ得ズ二十日ニ  
至リテ掃蕩ヲ止ム

(三)十九日一四五。輸送機ハS五度四。分ニ於テ敵潜水艦ヲ發見  
セルヲ以テ九三ニ空ノ一部兵力ヲ以テ此ノ敵潜水艦撃手沈ニ向ハ  
シムルト共ニマドラ島南方海面ニ出現セル敵潜水掃蕩中ノ  
此ヲ以テ協同攻撃手セシメタルモ敵情ヲ得ルニ至ラズ二十  
三日掃蕩ヲ止ム

(四)二十九日一四〇。敵潜通信ヲスラバヤヨリノ方位一〇九度ニ測  
定同日一九五五ハ一五見張所ハ一三五度ニ干渉波ヲ感知  
セルヲ以テロンボック海峡附近敵潜存在セリト判断九三  
ニ部隊及甲區部隊掃海特務艇ヲシテ之ガ捕捉撃手滅ニ

1394

當ラレメタルモ敵潜ヲ捕捉スルニ至ラズ三十一日索敵ヲ止ム  
五)三十一日一二三〇輸送機ハ<sup>ES六度七分</sup>ニ於テ敵潜ヲ發見セ  
ルヲ以テ九三ニ部隊及甲區部隊ヲシテ「バリ」島南方索  
敵ヲ打切此ノ敵撃手減ニ任ゼシム

(六)敵潜水艦ハ「ロソボック」海峡ノ我ガ機雷堰ヲ突破シ「スシダ」  
海方面ニ侵入シ「アルト」共ニ「センプ」島以東ノ瓜哇島南岸ニ  
謀者ヲ輸送シ「アル」疑濃厚ナルヲ以テ當部隊ハ此ノ敵潜  
ヲ邀撃撃手減又ハ捕獲スル目的ヲ以テ掃海特務艇ニ大發  
六ヲ以テ第一遊撃手隊ヲ編成夜間「ロソボック」海峡ニ配備シ  
又漁船(四十粒機銃一基裝備)一隻ヲ第二遊撃手隊トシ  
テ「センプ」島以東ノ瓜哇島南岸ヲ移動哨戒セシム  
本作戦ヲ浦第一號作戦ト呼稱シ十九日(月齡二六)ヨリ  
二十九日(月齡七)ニ至ル間作戦セルモ戦果ヲ得ズ(同作戦

1895

戦闘詳報参照

八對航空機

一十五日ノ二十一通×情報ニ於テ印濠間英有力艦行動ノ算  
アリトスル報ニ基キ十六日已區部隊ニ對シ警戒ヲ令シ(1KB  
電令作第一八三號)警戒中十七日〇八三〇マラン南岸ヨリ  
敵双發機侵入ノ報ト同時ニ〇九〇〇TBF雷撃機SB  
D爆撃機F6F戦闘機約五〇機ハ三隊ニ分シテスラバヤ地區  
ニ侵入内ニ隊ハ軍港飛行場地區ヲ他一隊ハウオノコロ毛製  
油所ヲ攻撃セリ。増強待機中ノ我方地上砲火ハ忽チ其ノ三機  
ヲ確實ニ撃墜一機ニ黒煙ヲ吐カシメ之ヲ東方ニ撃退セルモ我  
方亦若干ノ損害ヲ被リタリ(第四參考被害ノ項參照)  
スラバヤ地區ト同時ニ約三十機ヨリ成ル他ノ一隊ハマラン  
陸軍飛行場ヲ急襲シ陸軍機十七機火上火上ノ被害ヲ蒙

1896



リタリ、

敵機動部隊ハ尚爪哇島南方洋上ニ策動中ノ算大ナルヲ以テ夜間ノ再襲ニ備ヘ特ニ警戒ヲ嚴ニスルト共ニ防空諸訓練被害箇所ノ急速整備防護施設ノ強化ニ勉ム

(二十七) 日朝來襲ノ敵機ハ何レモ艦載機ナルヲ以テ爪哇島南方ニ尚敵機動部隊アルモノト判断萬全ノ措置ヲトリアリタルトコロ十八日〇〇五〇敵コンソリデーデットB-24六機爪哇島東端及マドラ島東端ヲ經テ一機宛逐次「スラバヤ」ニ侵入セリ、我方電探探照燈ノ連絡極メテ良好ニシテ、殆んど毎回敵機ヲ捕捉、ソノ一機ヲ撃破ス、敵ハ爆彈十數發ヲ投下南方ニ遁走セリ

(三) 二十日ニ三三〇敵機(P.B.Y)三機四料乃至五料ノ高度ヲ以テ「マドラ」島東端ヲ經テ「スラバヤ」港北口ニ侵入、「マドラ」島

1897

西部ガリセ附近ニ彈種不明數發ヲ投彈ニテ一日〇〇一〇  
米ニ進走セリ我方地上被害ナキモ機雷敷設ノ疑アリ  
タリヲ以テ二十三日一二〇。迄、スラバヤ海峡、シヤムア、島ヨリ  
ガリセニ至ル航路ノ磁氣並ニ音響機雷掃海ヲ實施ス  
處分機雷ナシ

四二十五日〇〇五、ワドラ、島ヨリB、P、B、Y、計四機、シ  
ヤ、島北岸ヨリ二機、スラバヤ海峡ニ侵入、各掃海水  
路ニ機雷敷設セルモノノ如ク。二五〇去ル直ニ各掃  
海水路ノ航行ヲ禁止スルト共九三ニ空機ヲ以テ音  
響機雷掃海ヲ實施（處分機雷南掃海水路北口  
附近エテ一個）

次テ第二第三區、ウ區、成區、A區ノ磁氣機雷掃海ヲ  
實施セルモ拘捉機雷ナク三十日西掃海水路ノ掃海ヲ

1398

ア、艦船ノ出入ヲ許可ス

四、敵機ノ海峡ニ機雷敷設ニ備ヘ海峡監視艇ノ他二十六日ヨリ毎夜海峡ニ掃海艇或ハ駆潜艇ヲ配備シ機雷敷設機ノ邀撃手ニ任セシム

ニ、邀撃手世帯

一、各基地整備状況概ネ左ノ通

イ、魚雷艇基地

丙、基地トシテデンパツサル概成「ロンボ」造成中五〇%完成

「ビマ」五〇%完成「アラバハン」ラト海上施設完成陸上施設

概成

四、遠綴補給基地

「ル」基地完成其ノ他海上遠綴装置ヲ除キ概成

ハ、航空基地

「バリ」第一回「スンバ」第一航空基地何レモ概成「ビマ」  
第一回戦闘機發着ニ支障ナキ程度ニ滑走路完成  
「スラバヤ」第一回滑走路擴張中「オノオ」滑走路六〇%  
完成「カマル」回滑走路擴張工事中  
「ムンチヤル」サウビ「兩水上機基地概成  
回現施設ヲ利用セル對空防衛示分散格納法概不完  
成起爆層並ニ掩體、構築ヲ概成シ引續キ洞窟式  
格納施設急速整備中

水防諜

「一日ヨリ爪哇海軍特殊地域内ニ於ケル測量撮影等ニ關  
スル告示ヲ發布ス  
「二十八日ヨリ四日間現住民使用者身分證明書ノ一齊  
検査ヲ行フ

1900

(三) 現地使用人ノ標識ヲ改正シ海軍特殊地域出入取締ヲ強化ス

### へ教育訓練

(一) 四月三十日ヨリ五月三十一日迄陸上配置員ノ外出ヲ禁止シ教育訓練及對空防禦施設實施ニ從事セリ

(二) 四月三十日ヨリ五月十四日迄補充兵ニ對シ機動上陸部隊訓練ヲ實施ス

(三) 一日ヨリ補充兵ニ對シ六月十五日完了豫定ヲ以テ左ノ講習ヲ實施ス

水兵一九……信號術講習、機關兵一〇自動車操縦講習、機關兵一〇電測術講習

(四) 無線通話規程ヲ定メ碇泊ノ期間ヲ以テ通話訓練ヲ實施ス  
(五) 八日ヨリ二十七日迄第一回初任下士官教育ヲ實施二十九日ヨリ第

121

二回ヲ開始ス  
六例月通防衛通信訓練ヲ實施ス

1902



123

三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
						務							任										衛								護	一〇四特
						面								方									ダ			ン					ス	二〇三特
						面								方									ダ			ン					ス	三〇三特
						面								方									マ			ジ					西	七〇七特

1904